

目的 タンニン鞣革は（特に工芸用に用いる場合）、染色後の変退色が著しいことが良く知られている。そこで特に耐光堅ろう度改善の目的で耐光堅ろう度が不良な染料を選び種々の処理剤を使用して試験研究を試み、処理効果を検討した。

方法 1) 供試皮革：成牛革（タンニン鞣、厚さ1.4mm）大きさ3×7cm、バット部より裁断。  
 2) 供試染料：金属錯塩染料、塩基性染料（何れも工芸用に多用されるもの）。 3) 処理剤：5種（サンフィックス555、カヤフィックスEC+紫外線吸収剤ASL24S、カヤフィックスEC+塩化第2銅、塩化ニッケル、鉄明ばん）。 4) 試料の染色方法：3%染料溶液により刷毛引きで20回繰返し染色。  
 5) 処理剤使用方法：試料革を染色前、染色後、染色前後に規定濃度の処理剤（45～50℃）に20分間浸漬処理し裏返して自然乾燥。 6) 試験方法：JIS-L-0842<sup>71</sup> カーボンアーク燈光に対する染色堅ろう度試験方法により実施。

結果 1) 処理剤別にその効果を比較してみると、今回の実験結果からは何れの処理剤も染色後の変退色防止に顕著な効果は得られなかったが、金属錯塩染料のC. I. Acid Red 258 による染色革をカヤフィックスEC+塩化第2銅で処理したものが耐光等級が1～2級向上した。 2) 処理方法は、染色後より染色前に行う方が僅かに良い傾向を示した。染色前後に処理すると、処理回数が多いにもかかわらず耐光性の向上は認められず革の風合も悪くなった。 3) 処理剤によっては試料革の鞣剤（タンニン）の変色防止効果のあるもの、染料の変退色の防止効果があると考えられるものが見られた。